



### 【野村農園】

野村英史さん(写真右)と野村みゆきさん(写真左)。

家族で作った花は、花市場や直売所に出荷しています。

「ユリをプレゼントすると、1輪1輪花が咲くごとに喜んでいただけたと思います」とみゆきさん。

## 特集

# 母の日は下関産の花を

県内有数の花の産地である下関には、花市場があり、地元の新鮮な花が集まります。

母の日は、感謝の思いとともに、下関産の花を贈ってみませんか？

☎ 農業振興課 ☎231-1226

花が集まり、競りへ

県内には花市場が3つあり、その中でも、最大の規模を誇るのが下関合同花市場です。前身を含め、約90年の歴史があります。花は、下関はもちろん、全国各地や海外からも集まってきます。集まった花の内、80%が注文対応やWeb販売などにより、競り前には販売され、残りの20%が市場内の競りに掛けられます。早朝午前6時20分、ベルの音とともに競り開始。競り人が3カ所に分かれ、一斉に競りが始まります。競り人が花を高く掲げ、花の魅力を売り込みます。時折、買い手と掛け合いをしながら、競りは独特の熱気を帯びます。そして手を使って数字を表現する「手競り」で、次々と値段が付けられていきます。約40分で市場に集められた花は、すべて競り落とされました。これらの花は、生花店の店頭などに並べられ、私たちが買うことができます。

## ＼ 花の生産者から / 豊浦ナーセリー 代表 中川真紀 さん

先代から30年以上、鉢植えのカーネーションを作っています。

4,600鉢を花市場や市内道の駅、小日本ふるさと市などに出荷しています。

鉢のカーネーションの魅力は、母の日の時期にしか出回らない、特別な花ということです。日頃感謝を言葉にするのが難しくても、母の日に花を贈るだけで、気持ちが伝わります。

1鉢、1本の生花が、皆さんのとても忙しい毎日に寄り添って、心がほっとできたり、癒される存在になり、花が生活の一部になるといいなと思います。





競りの様子



下関産の花



手競り



岡田代表取締役社長

## 下関で **花** が集まる所

### 下関の花の生産は

下関合同花市場の岡田富美雄代表取締役社長に、下関の花の生産状況を伺いました。「最近では、天候の影響を受けやすい露地栽培が減少し、安定生産が見込める施設栽培が主体になっています。しかし、需要の伸び悩みや生産者の高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響により、この5年間で出荷量は37%減少、出荷者も29%減少しました。今後は、県花卉農協など、関係機関が一体となって、新規生産者を増やし、花の生産を振興していきたいと思えます」

このような中、親子2代に渡ってユリやトルコギキョウを栽培している野村英史さんに、花を作る魅力を伺いました。「花が成長していくのが楽しいです。作った花を喜んでもらえることもうれしいです」と楽しそうに話してくれました。

5月9日は母の日。下関産の花を贈って、花の生産を応援してみませんか。

### ＼ 花屋さんから / flowershop chocole オーナー 山本佳典 さん



花には短い寿命にすべてが詰まっています。散って枯れるまでを見せてくれることで、命の大切さを教えてくれています。だからきれいなんだと思います。いつもと違う花屋に行くと、きっと見たことのない花があります。花屋は見ていただくだけでうれしいので、ぜひいろんな花屋に足を運んでみてください。

下関産の花は、鮮度が良く、傷みが少ないのが特徴です。花の産地を知りたいときは、遠慮なく聞いてください。